

# 2020 年度事業報告

2020 年 7 月 1 日～2021 年 6 月 30 日

## 1. 評議員会・理事会の開催

2020 年度は理事会を 2 回、みなし決議による理事会を 1 回、評議員会を 1 回開催した。開催概要は以下のとおりである。

### 第 5 回理事会

日時・会場 2020 年 8 月 25 日（火）午前 10 時 30 分～11 時 50 分

ATR 特別会議室、大阪大学東京オフィスおよび福知山公立大学を Web 会議システムにより結んで開催

出席役員 木戸出正継代表理事、萩田紀博理事、中川雅永監事（以上 ATR 特別会議室）  
栄藤稔理事、西田豊明理事（以上 Web 会議システムにて出席）、

- 議事 ①2019 年度事業報告の件（報告事項）  
②2019 年度決算の件（決議事項）  
③2020 年度事業計画の件（決議事項）  
④2020 年度予算の件（決議事項）  
⑤第 2 回評議員会招集の件（決議事項）

### 2020 年度定時評議員会

日時・会場 2020 年 9 月 11 日（金）午前 10 時 30 分～12 時 00 分

ATR 第 2 応接室、大阪大学産業研究所、奈良先端科学技術大学院大学、葉原評議員宅および松本評議員宅を Web 会議システムにより結んで開催

出席者 吉田進評議員、木戸出正継代表理事、中川雅永監事（以上 ATR 第 2 応接室）  
葉原耕平評議員、松本正夫評議員、八木康史評議員、横矢直和評議員（以上 Web 会議システムにて出席）

- 議事 ①2019 年度事業報告の件（報告事項）  
②2019 年度決算の件（決議事項）  
③2020 年度事業計画の件（決議事項）  
④2020 年度予算の件（決議事項）  
⑤理事 5 名選任の件（決議事項）

### 第 6 回理事会（みなし決議）

決議があったとみなされた日 2020 年 9 月 11 日（金）

議事 代表理事の選定について（決議事項）

第 2 回評議員会による理事選任の結果を受けて理事全員一致で代表理事に木戸出正継理事を選定

### 第 7 回理事会

日時・会場 2021 年 2 月 10 日（水）15 時 30 分～17 時 00 分

ATR 第 2 応接室、大阪大学東京オフィス、サントリーグローバルイノベーション

ョンセンター株式会社本社および福知山公立大学を Web 会議システムにより  
結んで開催

出席役員 木戸出正継代表理事、阪田正和理事、中川雅永監事（以上 ATR 特別会議室）  
栄藤稔理事、高橋賢藏理事、西田豊明理事（以上 Web 会議システムにて出席）、

議事 ①2020 年度受託調査の概要（報告事項）

②協会の収支実績（報告事項）

③その他の活動報告（報告事項）

## 2. 受託調査研究の実施

ATR より、2020 年 10 月 15 日から 2021 年 6 月 30 日までを契約期間として「新生活様式における新世代情報通信社会の基盤システム実現イメージと研究課題に関する調査」を受託し実施した。この調査のため、ロボティクス、メディア理解とインタフェース、コミュニケーション環境等について、ATR との共同研究が期待される理化学研究所に基礎的調査を委託し、その成果を踏まえて報告書を取りまとめ、期日に ATR に納品した。（資料 2 参照）

## 3. 社会貢献活動

当協会は、非営利型一般財団法人として、定款において「情報通信等の分野の研究開発の一般への啓発およびこれらの分野の研究者の育成」等の社会貢献を行うことを目的の一つとしており、2018 年度から 2019 年度までは地元の精華町東光小学校においてプログラミング教育の支援を行った。

2020 年度は、COVID-19 の蔓延により、新たな社会貢献の準備活動を行うことが出来ず、事実上凍結状態であった。

## 4. 新規研究開発テーマの探索

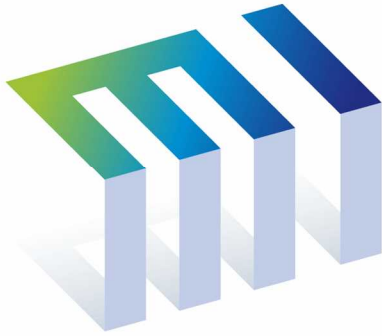
当協会独自に新規研究開発テーマの企画検討を有志で継続して推進している。

2020 年度も“次世代コミュニケーション基盤技術の探索と応用分野の開拓”のテーマで、次世代のコミュニケーションに必要な多様なメディアによる基盤要素技術群の深耕とキーマプリの具体化を目指して、検討を継続している。山本アドバイザーに新たな中堅研究者も巻き込み、言語情報を中心としたグローバルコミュニケーション研究の次を念頭に、対象情報のマルチメディア化・解析の高度化・社会展開の拡大などの視点から基盤要素技術群を洗い出し、“誰でもどこでもいつでも”のまるごと通信機能をもったコミュニケーション社会を実現したい。自然言語理解、音声理解、非言語情報理解、中間共通知識表現、知的生成表現、意図付要約、などのコミュニケーション要素技術を実現したい。また、研究チームの構成とシステムづくり、産学連携・グローバル連携・地域連携の社会体制なども考慮して、プロジェクト企画としたい。

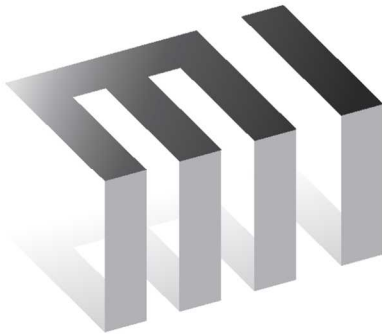
## 5. 協会ロゴの制作

協会発足以来、協会のロゴマークについて検討を進めてきたが、現代的で斬新なデザインを目指し、京都市立芸術大学の舟越一郎教授と委託契約を結んで、ロゴを作成した。（下図参照）

協会のホームページや印刷物などで積極的に活用を図ることとしたい。



Association of  
Meta-Research Innovation  
at ATR



Association of  
Meta-Research Innovation  
at ATR